

J R東日本労働組合

秋田ジャーナル

J R東日本労働組合

秋田地方本部

発行者 ~ 佐藤 俊樹

編集者 ~ 教 宣 部

秋田市中通6丁目7-9秋田県畜産ビル1F

TEL 835-4040 FAX 835-4060



HPはこちら!

謹賀新年

組合員とご家族の皆さん、新年のお慶びを申し上げます。
はじめに、昨年7月25日の山形・秋田両県を中心とした記録的大雨災害で、幸いにも被災された組合員や家族はおりませんでした。1月1日に能登半島地震が発生し、追い打ちをかけた大雨災害は記憶に新しいところです。被災リスクから生活基盤を守るために、相互扶助の位置づけはますます重要になると受け止めています。地本を中心とした情報共有とボランティアを意識した対応を進めていきます。

これまで「組織の再編」と称し、統括センター・営業統括センターの発足や、施設・電気関係の体制の見直し、そして在来車両関係は東北本部管轄となりました。そして昨年には秋田統括センターが発足しました。一部職場では休日労働が日常茶飯事であり、「融合と連携」の目指す先が、実は要員不足をカバーする手段になっていないのか、「果敢にチャレンジ」する意識の醸成は逆に責任感を押し付けていないのか、エルダー出向しているグループ会社で技術伝承のほずが、即戦力と働き方が変化していないのかなど、社員や組合員の声を聞くほど「働きがいとは何か」を考えさせられる実態があります。どの系統においてもメンタル面を含めた関りは必要だし、意欲が減退する会社の実態は見逃してはならないと考えます。

またこのことは安全に直結する問題です。6年が経過した羽後本荘駅構内作業中の傷害事故から、地方本部は10月5日を「安全を考える日」と位置付けています。昨年はJR東日本だけで1月23日に架線垂下事故で感電の二次災害が発生し、3月19日は車両滑走しオーバースパンと、9月19日には「はやぶさ・こまち」の列車分離、それからJR貨物に端を発した「車輪と車軸の組み立て作業の不正」はJR東日本でも発覚しています。それぞれ原因究明と対策が進められています。業務に精通した作業者は経験値があります。あらためて根拠に基づいた作業手順なのか、その過程で危険作業の洗い出しを重ね合わせて、チェック機能を働かせることが必要ではないでしょうか。「安全・安定輸送」を守り「すべてのJR労働者の死亡事故・重大災害ゼロ」を常に心掛けていきましょう。

既に2025春闘は始まっています。猛威を振るったコロナ禍も沈静化の兆しが見え、社会生活は戻りつつあります。連結決算も営業利益や経常利益が増収増益である事からも明らかであり、これまでのサービス努力が成し得た業績である事を皆さんと共に確認し合いたいと考えます。2024年の賃上げや各期末手当で会社と社員の間に信頼が揺らぐような低額回答を一掃する春闘として、エルダー組合員とJR採用組合員の幅広い強固な絆で挑みます。

組合員皆さんのご理解とご協力でご各分会を解散しました。今後「集約と機動性」を発揮できる組織として進んでいきます。

今年一年が、健やかで笑顔と喜びあふれる年になるよう共に頑張りましょう。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

2025年 元旦
JR東日本労働組合秋田地方本部
執行委員会一同